

5/7 コリント人への手紙第一 1 章 1-9 節「キリストがすべての中心」

小池宏明 牧師

今週から、新約聖書のコリント人への手紙を通して、主の民であるキリスト者の生き方、あるいは、キリストの教会が直面する課題と解決について求めていきたい。

*大都市コリント

当時のコリントという町はローマ帝国のアカヤ州の首都でギリシャ半島の南に位置し、地中海の東西交易の中心地で、商業都市、文化都市として発展すると共に偶像礼拝が盛んで道徳的に墮落した大都会であった。パウロが伝道して誕生したコリントにある家の教会は、悪しき思想や風習の影響を受けて混乱が起きていた。パウロはコリント教会の問題を知って、解決の道筋を示すためにこの手紙を書き送った。

*キリストに召された者の立場

今回の前書き（序言）では、イエス・キリストによって救い出された者の立場を明言している。コリント教会の信徒たちは、さまざまな課題を抱えていたとしても、キリストにあって「聖なる者」とされたのであり、キリストにあって「聖徒」と呼ばれるのに相応しい者とされている。主なる神様ご自身が、キリストに結びついた者をキリストの似姿へと成長させ変化させるのだ。主の召しと招きがあって、私たちは救い主イエス・キリストのとの交わりに入れられた。(8, 9 節) 神様は、救い主イエス・キリストを信じるどんな罪人をも「聖い者」とみなして下さり「聖徒」と呼んでくださるのだ。

*地上のキリスト者の成長

私たちも地上にある地域教会に属しており、この地上の悪しき影響を受けて、様々な問題や課題を多く抱えている。しかし、それだから駄目だということではない。地上にあるどこの教会も右往左往しながらも聖化されて行く成長途上にある。その成長過程は一人ひとり違う。

パウロは、私たちが信仰生活の中で直面する様々な出来事を福音と言うレンズ（眼鏡）を通して見るその見方を教えている。これから、耳の痛い話も多々出て来ると思うが、理想的な教会へ、主が喜ばれる信仰者として、成長していく糧として、パウロの言葉を主なる神様が導いて語らせた言葉として受け止めながら、私たちの教会に、また私たち自身に照らし合わせながら歩んでいきたい。